



マザーレイクプロダクツプロジェクト

伝統工芸が、デザイナーの発想と出会い 滋賀発の新感覚ブランド「KIKOF」誕生



左) KIKOFの信楽焼と近江の麻のランチョンマット 右上) 2012年に完成した最初のプロジェクト商品(左から木珠のネックレス、彦根漆塗りのカップ、近江の麻のストール、浜ちりめんのブックカバー、信楽焼の器) 右下) KIKOFの浜ちりめんのサシェ(香り袋)

滋賀県内の伝統工芸品の職人たちが作る「マザーレイクプロダクツプロジェクト」と、人気のデザインチーム「キギ」が生み出した「KIKOF(キコフ)」は、今、注目のプロダクトブランド。マザーレイクプロダクツプロジェクト発起人の立命館大学経営学部教授佐藤典司氏に話をうかがい、地域ブランド成功の鍵を探る。

伝統工芸で、滋賀ブランドを 人気デザイナーとコラボ

プロジェクトの、これまでの活動を教えてください。

滋賀県の商業振興課(当時)から、「伝統工芸を素材にして、滋賀県のブランドを作れないか」とご相談をいただいたことをきっかけに、「信楽焼」「近江上布」「彦根仏壇の漆」「長浜の浜ちりめん」「近江八幡の木珠」などの職人や企業の方と一緒に、現在の人々の暮らしにマッチした商品を作りたいという思いで、2010年秋から活動を始めました。

12年春に商品が完成し、県内の店舗等で土産物として販売したりしました。しかし、都会の生活者が飛びつくようなものになるには、何かが必要ですね。

そこで、優れたデザイナーが必要ではないかと思い、幅広いデザイナーで注目を集める株式会社キギの植原亮輔さん、渡邊良重さんのお二人に声をかけました。そして14年春に、キギとマザーレイクプロダクツプロジェクトが協力し立ち上げたのが、プロダクトブランド「KIKOF」です。

軽く、薄く、新感覚の信楽焼 新鮮なテーブルまわりの品々

キギとマザーレイクプロダクツプロジェクトは、



KIKOFの器に盛られた滋賀の食材を使った料理

います。それが大きな課題ではないでしょうか。今は、言葉だけでなく、色や形やすべてのことでコミュニケーションしていかないと届かない時代だと思っています。今後のプランをお聞かせください。

KIKOFは食卓まわりの展開をしているので、次は料理に広げられたらいいなと思っています。KIKOFの食器を使って、滋賀の野菜を使った料理を楽しむイベントの開催なども、最近試みしました。また滋賀を舞台にした絵本を作ってみようかという話も出ています。琵琶湖や滋賀の自然の魅力を、たくさんの人に届けていきたいですね。



発起人
佐藤 典司氏
(さとうのりし)

マザーレイクプロダクツプロジェクト
http://shiga-motherlake.jp/

キギとマザーレイクプロダクツプロジェクトは、今年4月には、イタリアで毎年開催される、インテリア・デザイン見本市、ミラノ・サローネに参加しました。

商品から空間までをデザインブランドイメージを統一

キギとマザーレイクプロダクツプロジェクトは、今年4月には、イタリアで毎年開催される、インテリア・デザイン見本市、ミラノ・サローネに参加しました。

いろいろな所から、たくさん引き合いはあるのですが、ほとんどお断りしています。ありがたいお話ですが、それを受けると、店の意向でディスプレイされるなど、こちらが商品に込めた考えなどを十分に伝えることができません。

代わりに、キギとプロジェクトのメンバーである丸滋製陶が中心になって、東京・白金に「OUR FAVOURITE SHOP」という店を出しました。ここでは、KIKOFを中心に、キギのデザインした商品などを扱っています。また、KIKOFのWebサイトでも購入できます。

デザイナーと職人のコラボはうまくいっていますか？

伝統工芸の世界に、マーケティング力やプロモーション力を兼ね備えている人は、あまり多くありません。プロダクトデザインから、マーク、ロゴ、広告、イ



KIKOFのテーブルウェアとイス、テーブル

KIKOFは信楽焼のテーブルウェアからスタートしました。八角形の直線的な造形、陶器なのに、磁気のような薄さと軽さを持つ斬新なデザインは、従来の焼きもののイメージにとらわれないものになっています。

ブランド名は、琵琶湖を大自然の空間と、過去から未来を包む大きな器に見立て、器湖(キコ)という造語に、FUTUREやFREEなどの頭文字のFを加えたものです。

現在は、木作家や和ロソクの作り手などの新しい仲間にも参加していただいて、テーブルウェアの他、テーブル、椅子、近江の麻で作るエプロン、燗台など、食卓まわりのラインナップを増やしています。

KIKOFは、各方面から高く評価されているようですね。

昨年東京アートディレクターズク